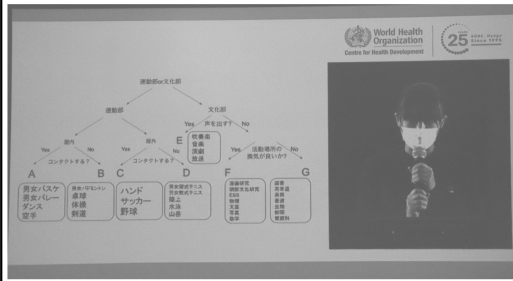


自分たちで自分たち自身を守るルールを長田高校



↑長田高校生のプレゼンテーション

長田高校は、「学校でのCOVID-19対策」というテーマについて、「私たちが作る私たちのための部活動ガイドライン」を発表した。

学校内のコロナ感染の割合は高校が24%で、小、中、高の中で一番高い。また、集団感染は部活動で感染する確率が最も多いというデータもあった。そこで、部活動でのコロナ対策に関するアンケートを行い、特徴ごとに部を7グループに分けた。部長会議を実施して、各部活動の感染対策の

現状を把握し、対策を練り、ガイドラインを制作、共有した。ガイドラインは、具体的な感染対策を全部活動に共通した対策、各チームに共通した対策、各部活の対策の3つに分類。全部活動に共通した対策として、距離、換気、共有物、体調管理、部室の5つを中心に具体的な内容を決めた。さらに運動部共通の対策、発声・演奏を行う文化部、その他の文化部に分け、飲み口の共有禁止（運動部共通）、向かい合っの活動を避ける（発声、演奏を行う文化部）などの対策を行なうこととした。

「以前は、それぞれの部活動が個々で考えて実践している状態で部によって差があったが、今回、自分たちで自分たち自身を守るルールや規則を自分たちで考えたことで感染対策のレベルが大きく上がった。このガイドライン作成が対策について考えるきっかけになって欲しい」と生徒や視聴者に呼びかけた。

楽しんでできる手指消毒 関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部は、「学校でのCOVID-19対策」というテーマについて、手指消毒の使用について研究し、「ついしなくなっちゃう手指消毒」を発表した。

手指消毒はもっとも身近にある感染対策の一つだが、消毒液を使っていない人も多くいた。使っていない生徒に理由を聞くと、「効果を感じない」、「めんどくさい」などの声があった。使わない生徒がいる原因として、監督する人がいない、なじみがない、軽視されていると推測し、対策を考えた。まず校内のマップを作り、消毒液を配置している場所を可視化。少ないところに消毒液を設置した。そして自作の消毒装置を作成。1プッシュで投票が出来る究極の選択、学校近くにある太陽の塔をモデルにしたものの2種類作った。そして、7日間のプッシュ回数の平均を調べ自作の消毒液を置く前と後で比較。結果は置く前は平均235回だったが置いた後では358回と大きく増加。最も多い日では604回だった。生徒にインタビューすると、「楽しみながら消毒できるのはい」と高評価だったという。

今回の試みで、危険な場所を可視化し感染対策レベルを上昇させ、楽しく手指消毒することができた。検証する対象は幼稚園児から高校生と幅広く、対象に合わせ制作をしたことも好評に繋がった。「実際に効果が感じられない理由の改善ができたかは分からないが消毒液使用の習慣も大事。その習慣をつけることは今回の検証で効果があったと思う」と締めくくった。



↑メモを取る編集部員

高校生ならではのキラリと光る提案

新しいコロナ対策を姫路から

授業で情報の扱い方を知る 葺合高校

葺合高校は、「若年層のヘルス・コミュニケーション」というテーマについて、学生の情報リテラシーなどに注目して、「若年層のヘルス・コミュニケーション」を発表した。

まず、高校生の情報源について国内外でアンケートを行った。結果、公的機関のウェブサイトは海外でよく閲覧されているが、日本ではあまり閲覧されていないことが分かった。理由としては、情報リテラシーの違いが挙げられる。日本は情報リテラシーの実用的なスキルを学ぶ機会が少ないが、アメリカでは小学生から情報の読み取り方を学ぶ。この違いが大きく表れた結果となった。そこで、校内でメディアリテラシーの授業を行った。授業が終わった後にアンケートをとってみると、授業の前後で公的機関から情報を入手する力がある生徒は32%から52%に増加した。そのモデル授業は葺合高校のホームページに掲載されている。

→フォーラムを聞く
編集部員



授業の前後で公的機関から情報を入手する力がある生徒は32%から52%に増加した。そのモデル授業は葺合高校のホームページに掲載されている。

今後は知る楽しさを伝え、葺合モデル授業を全国に広め、良好なコミュニケーションが広がり、多くの人が健康を自ら守っていくことが可能な社会を目指していくそうだ。

情報を能動的に入手できるように 姫路飾西高校

姫路飾西高校は、「若年層のヘルス・コミュニケーション」というテーマについて、「正しい情報の向き合い方」を発表した。

このコロナ禍で個人の判断が必要になるときは多々ある。正しい情報を入手し、意志行動・決定していく必要があるのだ。高校生100人に聞いた、コロナワクチン希望しているか？という質問では綺麗に半数で分かれた。反対の理由は副作用が怖いなどの意見があり、希望した人の理由は感染したくないという意見があった。なぜ選択に差が出るのだろうか。高校生が信頼できる状況を自分で判断し、自分で情報を探しにいく習慣をつける必要があるという意見があった。そのための取り組みとして、校内でポスター掲示や放送を行った。ポスターは教室や掲示板など身近なところに掲載。昼休みにはワクチンについての内容を放送した。

その後ワクチンについてアンケートを行うと、放送前は、嫌い、怖い、自分から遠い存在などの意見があったが、誰でも感染する可能性がある、近い存在、正しい情報を見極めていきたいなどとコロナウイルスに対する態度に大きな変化があったことが分かった。情報についても、事後アンケートでは情報がはっきりしているものを取り入れる、多くの情報を比較する、など情報に対して能動的になろうとする意識が見られた。「情報が正しいかどうか見極め、噂がデマかどうかの真偽を自分で調べ判断することが大切だ」とまとめ、発表を終えた。

記者席

どの高校の発表も工夫が施されており、みんなが楽しめ、みんなが活用できるようなことをされていた。参考になるところ、自分のできていないところを見直す素晴らしい機会になった。特に情報リテラシーの部分は全然知らなかったので、これを機に改善していきたい。そして今後はコロナ対策として参考にできるところは参考にして、レベルの高いコロナ対策ができるように心がけていきたい。

(A. T)

